

研究課題名	肺癌の病理診断に有用なマーカー探索に関する研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科 病理学 教授 武島 幸男
研究期間	2018年9月11日～2028年3月31日まで
対象者	2005年1月から2027年3月までの間に広島大学病院にて手術あるいは病理解剖を受け、病理組織学的検査にて「原発性肺癌」と診断された患者さん。
意義・目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 原発性肺癌は腺癌、扁平上皮癌、小細胞癌など多くの組織型に分類されます。これらは組織型によって治療方法や予後が大きく異なるため、病理組織学的鑑別診断がきわめて重要です。肺癌の病理組織学的診断はH&E染色標本の形態像と特殊染色、免疫組織化学的染色の所見を組み合わせで行いますが、従来の方法では組織型の決定が困難な症例も存在します。そのため、より診断精度の高い新規鑑別診断マーカーが求められています。 ● 今回の研究では、肺癌の各組織型および転移性肺癌の原発巣として頻度が高い癌腫のRNAあるいは蛋白の発現、がん抑制遺伝子・がん遺伝子の欠失・増幅をそれぞれ比較することにより、これらの鑑別診断に有用なマーカーを探索することを目的としています。本研究の成果により、肺癌の診断精度の向上が期待されます。
方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 広島大学病院病理診断科の病理診断データベースから「原発性肺癌」と診断された病理検体の「病理番号」、「病理組織学的診断」、「病理組織学的所見」の情報を抽出し、対象とする標本を決定します。 ● 対象者を識別できないように個人情報加工した対象症例のホルマリン固定・パラフィン包埋組織からRNAを抽出し、トランスクリプトーム解析を行います。 ● 肺癌の各組織型における messenger RNA (mRNA) の発現を比較し、有意な発現の差異が認められた遺伝子に対応するタンパクに対する抗体を用いて免疫組織化学的染色を行い、肺癌の病理組織学的診断に有用な抗体を明らかにします。 ● また、肺癌の各組織型における non-coding RNA の発現を比較し、肺癌の各組織型の発生、進展や予後に関与する non-coding RNA を同定し、新たな診断マーカー、治療標的分子を明らかにします。 <p>※生殖細胞系列の遺伝子変異（子孫に疾患が遺伝するかどうか）の検索や、対象疾患と無関係な遺伝子の解析は行いません。</p>
共同研究機関	ありません（本学単独での研究です。）
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科病理学 教授 武島 幸男
個人情報の保護について	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定

する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

- 研究に試料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel：082-257-5152

広島大学大学院医系科学研究科 病理学研究室 助教 榎谷 桂